

オフィスのインフラ整備(第1回)

Wi-Fiを導入すれば社内のどこでも仕事ができる

2015.09.09

オフィスのワークスタイルが変化しつつある。ポイントは「場所を気にせず働く」ということだ。パソコンがまだ高価だった時代、共用のパソコンデスクがあって、文書を作成したり、伝票処理をしたり、情報を検索したりする必要のある「人間」が、そこに向かって仕事をしてきた。その後、急速にパソコンの価格が下落し、1人1台のパソコン環境が実現、有線LANで結ばれた。その結果、各自のデスクで仕事ができるようになった。これにより働きやすくなったが、仕事の場所が固定されていることには変わりなかった。

しかし、最近はノートパソコンや、タブレット、スマートフォンなどのスマートデバイスの利用が当たり前になったことで、働く場所の制約がなくなりつつある。それを可能にしているのが、無線LAN(Wi-Fi)だ。

Wi-Fiでまず思い浮かぶのは、カフェ、ファストフード店、あるいは駅やホテルといった場所での利用だろう。このような場所で不特定多数がネットワークを利用するために使うだけでなく、家庭でもWi-Fiを使ってインターネットに接続するケースも増えている。こうした家庭での利用だけでなく、Wi-Fiはオフィスなどで、ビジネスのインフラとしての活用も進んでいる。

すでに多くの企業が、社内ネットワークのインフラとしてからWi-Fiを導入し始めている。有線LANと比較した場合、Wi-Fiは伝送量が少なく大量のデータが扱いにくいという弱点があったが、最近の技術的進歩によって解決されている。業務インフラとしてのニーズを十分に満たすものになった。

Wi-Fiを用意すれば、パソコンをどんな席でも利用できるようになる。それによって、自由に業務の場所を変えて働く「フリーアドレスオフィス」の導入が可能だ。会議室などでパソコンを使う際も、いちいち線を付けかえて社内ネットワークに接続しなくてもよいため、手間が省ける。

社内ネットワークの構築にコストがかかけられない企業こそ、オフィスへのWi-Fi導入を検討すべきだ。これをきっかけにワークスタイルの変革に挑もう。

社内のどこからでもネットワークに接続… 続きを読む